

第1回大船渡市スポーツ施設整備基本計画検討委員会

日時 令和2年5月29日(金) 午後1時30分～午後3時30分
場所 リアスホール 1階 マルチスペースほか
出席者 委員：15名
大船渡市：協働まちづくり部長、生涯学習課長、生涯学習課長補佐、
スポーツ推進係

[会議内容]

◇ 委員長及び副委員長の選任

委員長に新沼邦夫委員、副委員長に新沼良治委員を選任

◇ 協議事項

大船渡市スポーツ施設整備基本計画の策定について

〈意見・質疑応答〉

- ・ (新沼良治委員)「ストック適正化」とは何か？
 - (生涯学習課長) ストックというのは、今ある施設という意味で、その数を適正化していくという中身である。
- ・ (浅沼道成委員) 資料3(大船渡市スポーツ施設整備に係る検討結果報告書)で、かなり方針が決まっているような感じだが、これをかなりの部分で入れ込んで計画を立てるというスタンスか？これを覆すわけではないが。
 - (生涯学習課長) 昨年度の報告書は、どちらかというと利用者目線での意見が主になっている。本検討委員会では、利用者目線であったり、市民目線であったり、トータルで様々な角度から検討いただきたいと考えている。
 - (協働まちづくり部長) 補足するが、資料3の方向性については、検討委員会からいただいたご意見を取りまとめたもののご理解いただき、今回の整備計画については、この報告書をベースにして、基本計画そのものを作るということで、方向性が決まっているというわけではないので、ご理解をいただきたい。
- ・ (上関みさ委員) 利用者の目線から検討して、さらにこの検討委員会で検討するということ？例えば市営球場のところでは、意見として新球場を整備すべきとあるが、その意見に沿って引続き検討を進めるというものなのか？新たに検討を進めるというものなのか？
 - (協働まちづくり部長) 昨年度の3月にいただいた検討報告書をベースにして、それを踏まえて議論をいただくということである。様々な分野からお集まりいただいているので、スポーツ施設について、利用者の目線はとても大切だが、その他にスポーツの持つ様々な機能を考慮して、交流とか人材育成であるとかを含め、総合的に施設整備の基本的な市の考え方を計画として取りまとめたいということ

である。そういった観点での議論をこの検討委員会をお願いしたい。

- ・（新沼委員長）いろいろな資料を参考にしながら、もう一度新たに検証しながらこの検討委員会で原案を作ってほしいということだろう。あくまでも、特に具体的に書いてあるのが、3月27日に提出された報告書を見ると、これをやるのか、これを追認というか承認するような形になってしまうけども、そうではなく、もう一度皆さんで考えていただくということ。例えば、どんどん少子高齢化が進んでいく、人口が35,000人を切っている状況の中で、施設整備はどうか、生涯スポーツだとか、健康寿命とか、いろんなことを勘案しながら、規模であるとか、整備・更新等の可否であるとかを検討するというところでよろしいか？

→（協働まちづくり部長）そのとおりである。

- ・（上村弥委員）資料2のスポーツ推進計画の概要を見ると、令和元年度から5年度までは計画前期、6年度以降は計画後期という形で、その後にどのように施設を整備していくかという、この会議である程度の答申というか、そういうものを目指しているのだと思うが、この10年間でもどんどん施設の老朽化が進んでいく中で、体育協会として、この設備を早く直さないと利用者に迷惑がかかると報告しているが、ほとんどゼロ回答である。今後、この10年間の計画を作るまでの間、施設設備の老朽化にどう対応していくのか、お聞きしたい。

→（生涯学習課長）施設の修繕については、市の総合計画の実施計画を3年ごとに計画を作っているが、それを毎年見直ししながら予算に反映する作業を毎年行っている。実施計画に搭載されても、予算を編成する時点で予算を切られてしまうという状況になっている。体育協会にはご迷惑をおかけしている。

市の全体の公共施設の管理をどうするかということで、公共施設の総合管理計画を策定し、この3月に個別施設の施設計画を策定しており、まずそこに載せることが重要になってくる。スポーツ施設について年度計画を10年間で細かく作成して、それを市の個別施設計画に搭載して、総合計画実施計画に載せていくという手順を踏んでいかないと、なかなか予算確保が難しいところがあるので、スポーツ施設について、ちゃんとした計画を作るという作業が必要である。

- （富山主任）今の説明に若干補足するが、これから具体的に計画策定に取り組んでいくと、期間の話も出てくるが、向こう10年間くらいで市内のスポーツ施設をどのように整備していくかということを協議いただくことになるかと思う。先ほどその間に老朽化が進んでいくということだったが、もちろん10年後を見据えた上で、例えば計画の前期はこういうことをやっていきましょう、後期にはこういうことをやっていましょうということをこの場で協議していただいて、ある程度計画立てて整備していきましょうと、そう形づけるのがこの委員会の役割だと思っている。なので、この計画期間内で老朽化が進行していくのとは別に新しく整備していくということではなく、老朽化の対応も含めてどういった整備をしていくかという計画になる。

- ・（三宅肇委員）これだけの施設なので全てを一気にというのはできないと思うし、またすべて計画を立ててからというわけにもいかないと思うが、例えば現時点で、これを先に考えていくという考えはあるのでしょうか？

→（生涯学習課長）ストック適正化ガイドラインに添って施設毎に評価していくが、国のガイドラインによると一つの施設の寿命はだいたい60年となっており、この10年間でそれを超える施設は市営球場しかない。市民体育館で40数年なので、古さからいえば市営球場が一番直近の更新が必要なのかなと考えている。
- ・（志田秀香委員）策定体制イメージ図を見て、私たちの役割は、昨年度までの検討委員会の意見を踏まえた上で、事務局がまず素案を作り、庁内検討委員会で素案をさらに詰めて、その詰めたものを私たちに提案して、その中で私たちが感じるものを意見として述べたり、あるいはそのままいいのではないかとということも踏まえて議論していく、私たちが新たな計画そのものを作るのではなく、この2段階構えの最後のところで私たちは意見を述べていけばよろしいか？

→（生涯学習課長）基本的に今あるスポーツ施設を長寿命化して使い続けていくというのが根底にあり、中には長寿命化できない施設もある。それについては施設を更新するのか、もしくは廃止してしまうのかという検討をこの委員会でやっていただきたい。施設を1次評価、2次評価をしていくので、それは機械的に年数が経っているから使えるとか、利用者が少ないから廃止するとか、即、そのようにはならないが、まず、ある一定の評価を事務局で行う。その結果を皆さんにお示しして、それが妥当かどうかを検討いただくことになる。
- ・（金野敏夫委員）この基本計画検討委員会の性格というのは、大船渡市にどのようなスポーツ施設を整備するか、夢を語るのではなくて、現実に今ある施設が使えるとか、長寿命化できるかどうかとか、長寿命化できないとなった時に、例えばもうそれはやめるんだとか新しくするんだとか、非常に現実的な検討する場と捉えたのだが、基本計画の策定はそれが一般的な手法なのか、それともやむを得ずこういった形をとっているのか？

→（生涯学習課長）他の状況はよく把握はしていないが、全国的な例とすれば、国のスポーツ庁で示したガイドラインに添って、各施設ごとに評価を行って、使えるものはそのまま使う、改修しなければならないものは改修したり、廃止したり、集約したり、多かれ少なかれこの市町村でもこういう手法で行っていると思う。
- ・（古座勝利委員）昨年の検討委員会で委員になって、この資料にある報告書を審議して取りまとめた。例えば市営球場の考え方について、実際硬式の試合をすると、ボールがネットを越えてしまい、近隣住民の屋根にあたるということでかなり改修工事も行っている。それから大会がある場合、駐車場がかなり狭くまわりに迷惑をかけている、市営球場を拡幅する形で改修できないかという案もあった。それらを

含めて、規模を縮小してでも作ったほうがいいのではないか、あるいは陸前高田市に立派な球場ができるので、住田町の球場と合わせて広域間で利用してはどうかという意見があった。それを踏まえて必要性をこの場で議論していただければと思う。

それから、もう一つ、市民体育館の建て替えの案も出たが、実際駐車場がかなり狭い、バリアフリー化が施されていない、車いす利用者はエレベーターがないので利用できない、観覧するスペースが手狭だと。毎年かなりの維持管理費がかかっている。まだ、若干財産（耐用年数）が残っているということだが、それを踏まえるよりは先行的に改築したほうがいいのではないかという意見もこの中に含まれている。そういったものも全体的に皆さんで討論していただければいいのかなと思う。

→（協働まちづくり部長）今、古座委員からお話があったことが、そういった観点が大きいと思う。金野委員からご質問があったものだが、極めて現実的なものなのかということだが、そう言って差し支えないと考えている。国がガイドラインを定めたということ自体が、いわゆる施設を適正に長寿命化を主な観点として管理せざるを得ないのではないかという大きな方向性をもってこのガイドラインを定めたものと認識している。どんどん新しいものを作るという状況にはない、全国的に首都圏も含め地方も含め、そういうふうな状況であるという認識のもとで、こういった指針的なものが取りまとめられたということからも、現実的なものを作らざるを得ない、作るべきと考えているし、委員の皆様にはそういった観点でご意見をどんどんたまわれればと考えている。

- ・（浅沼道成委員）今のお話を伺って、基本的に作れないという発想ではないことがわかった。必要なものは必要、そのときにどうするか。基本的にはあるものを生かしましょう、寿命を延ばしましょう、というのは原則でいきましょうというのがガイドラインで、そのとおりだが、集約したり、あるものはもう切ってやめてしまおう、そのかわりその機能をどちらにもっていくか、そこまで考えた上での適正だと思う。大船渡市にとっての適正なものとはどういう形か、今あるものをただ残していくのが適正か、そうではないと思うので、先ほどお話しがあったが、夢は語れないではなく、夢は語らなければならないと思う。夢は語るが現実もある、それをちゃんと踏まえた上で現実の計画を立てていくというのがこの委員会だと思う。そのまま全て縮小とか、あと10年もたせるという話ではない。去年の委員会のものがある意味では利用者目線だということだが、現状というものをおさえて意見をいただいた大きな資料というか財産というか、それを踏まえていながら、最後にお話しされたような方の皆さんの意見も踏まえながらも、ダメなものはダメなんだと。私は盛岡にも関わっているが、やっぱり廃止と決めている。これとこれは廃止、何年までに、廃止ということもある。皆さん、廃止というと皆すぐ反対するが、それを覚悟して、この施設は廃止しますとか、先ほどのお話ですばらしいと思うのは機能を他市町村、要するに広域にするのだというのは大きな決断だと思う。その辺もたぶんこの計画の中に盛り込んでいくのだと思う。そういう意味である意味重要な役割になっている委員会であると思う。最終的には、市から案を出していただいた

ものに対して、私たち委員が様々な意見をいただきながら、どこかで判断しなければいけない、ただ、いろいろお話を聞いていて、夢のほうにいてほしいなと思ひ意見を述べた。

- ・（新沼邦夫委員長）計画策定の流れを皆さんで確認する必要があると思うが、4基本計画の構成の(3)施設の現況評価（1次評価）と(4)施設の環境評価（2次評価）は、事務局が行うということではよろしいか？

→（富山主任）昨年度の委員会では、古座委員がおっしゃったように、実際に施設を見ながらということを中心に重点的に行い、この評価の部分は、事務局がまずたたき台で評価したものを、実際見た結果でここは例えばAだね、Bだねとか、そういったやりとりは行ったところである。段階でいえば評価の部分というところでは、昨年度の検討委員会で役割を済ませたということになる。

→（生涯学習課長）1次評価、2次評価については、資料5の3ページ目だが、安全性・機能性の1次評価という形で、一行ごとに評価をABCDの4段階で評価をしていくことになる。この評価を委員の皆さんにさせていただくのは難しいと思うので、事務局で評価はさせていただきたいと思う。

- ・（新沼邦夫委員長）それともうひとつは、計画策定の流れの中で、志田委員さんがお話しされたが、ある程度の計画の素案を次回には提出していただいて、それについて協議検討するというところではよろしいか？

→（生涯学習課長）そのとおりである。事務局で素案を作って、庁内の検討委員会で案の段階まで検討して、それをこの委員会で検討いただくということである。

- ・（新沼邦夫委員長）それをとらえて、浅沼委員がおっしゃったように、委員の皆さんに、夢であるとか、生涯スポーツであるとか、技術の向上であるとか、いろんなことを各般にわたって検討し、必要性であったり、廃止だとか、他市町村との連携であったり、そういうことを検討して行って、最終的には基本計画案を作っていくということで確認させていただいて間違いはないか？

→（生涯学習課長）そのとおりである。

- ・（志田秀香委員）いただいた封書の名前がスポーツ施設整備検討委員会となっていたが、スポーツ施設整備基本計画検討委員会が正しいと思うが、それで皆さん勘違いしているのではないか。つまり、私たちは別な組織で、基本計画を検討する検討委員会ですよね。事務局は、しっかり把握したうえで委嘱を出さないといけないのでは。

→（生涯学習課長）封筒のあて名が間違っていたので、今後気をつけたいと思う。

- ・（古座勝利委員）想定スケジュールで、年内に全体で4回の会議である程度方向性を決めるということだが、実際、去年やった施設の議論になると思うが、なおかつ、改修に伴う優先順位まで4回の中で決めてしまうのか。全部で一気にというのは無理だと思うが・・・4回の委員会では方向性を決めるのは厳しいのかなと思う。

- (生涯学習課長) できれば年内に計画を策定できれば理想だが、できれば年度内、3月までに策定できればいいかなと考えている。進捗状況をみて回数の変更はありうると思う。
- (新沼委員長) それでは、次の予定、視察もあるようなので、いろいろご意見が出たが、本計画の策定について、ただいま皆様からご意見をいただいたり、事務局から計画案の説明があったが、本検討委員会として、計画の検討について、資料のとおりあたるといふことでよろしいですか？
それでは、本日の協議事項については以上となる。皆様には非常に忌憚のない、活発なご意見をいただき感謝申し上げます。